

人口減少と地方創生

選挙のためしばらくお休みしていた「市長どっとコム」を再開します。

「地方創生」が叫ばれています。人口急減、少子超高齢社会の本格的な到来という我が国が直面する大きな課題に対して、各地域が自律的で持続的な社会を形成できるよう、具体的な施策を展開していこうというものです。それぞれの市町村が自らの現実を見つめ直し、将来を的確に予測しながら、まちづくりに関して戦略的運営を行っていく必要があります。

もちろん高松市も例外ではありません。ただし、本市はいち早く人口減少、少子高齢社会の到来を予測し、その進むべき方向性を明確にしています。少子化対策として子ども子育て支援施策の充実を図りながら、私が「持続可能性の先に灯す希望」と位置づける①多核連携型コンパクト・エコシティの実現、②コミュニティの再生、③創造都市の推進、④地域包括ケアシステムの構築というビジョンを目指してまちづくりを進めることにより、活力を失わず、市民が幸せや豊かさを感じ得るような元気な高松の創生を図ってまいりたいと考えています。

「人口減少にいたずらに脅える必要はない。人間が安心して生まれ、育ち、老いていける社会を築けば、自然との環境容量の関係で適切に調整されるはずである」（注1）という指摘もあります。また、「今という時代は、…いわば“生みの苦しみ”の時代でもあり、かつ「経済成長への強迫観念」から解放されていく…新たな出発そして一人ひとりの創造の時代とも言える。」（注2）という識者もいます。さらに、若者の間で「地元志向」や「田園回帰」と言える現象も増えてきているとも聞きます。悲観的になる必要はありません。

私がマニフェストのテーマとした「創造性豊かな海園・田園・人間都市」へ向かって、中心市街地の活性化、公共交通の充実、コミュニティの活動支援、魅力ある創造都市づくりなど、これまで取り組んできた施策を更に効果的に展開して、地方回帰の流れをつくる一つのモデルとなるような地方創生を果たしてまいりたいと思います。

（注1）「人口減少に脅えるな ルールは変わった」（神野直彦 「全論点 人口急減と自治体消滅」時事通信社編）

（注2）「人口減少社会という希望」（広井良典 朝日新聞出版）